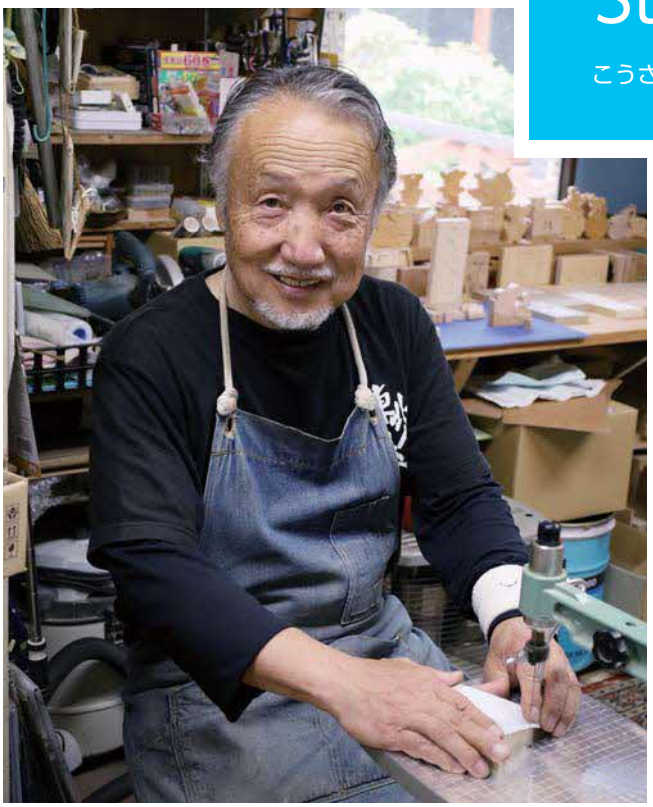
まちと人の想いが交わる情報交差点
広報こうさ
2025 May No.670

Kosa Style
こうさ スタイル



木工教室や心理リハビリなど精力的に活動中。キャンプ好きで、愛車のピンクのキャンピングカーがトレードマーク。

森 芳輝さん
Yoshiteru Mori
〔和田内区〕

木のぬくもりと優しさで はぐくむ子どもたちの心

「手と目、頭と想像する心で楽しめるのが組木のいい所。たくさんの人に木のぬくもりや優しさに触れる体験をしてほしい」と話すのは、ゆいの郷代表の森芳輝さん（和田内区）。

ゆいの郷とは、木工教室や障がいを持つ子どもの心理リハビリなどを行う施設。敷地内には、古民家を改装した木工品の展示室や子どもが組木や木のおもちゃで遊べる家などがあり、集いの場として親しまれている。

小さいころから遊び道具は自分で作っていたという森さん。大学卒業後は教員となり、33年間特別支援学校で勤務した。そこが知育教材や作業学習の製品づくりなどのモノづくりを始めるきっかけとなったという。「組木との出会いは、小黒三郎さんの『手づくり木工事典』。ページをめくる度に組木の奥深さ、素晴らしさに目を奪われた」と森さん。組木とは、木材を糸鋸で切り出し、木片と木片を合わせてパズルのようにはめ込むことができるおもちゃ。五月飾りをかたどったものはインテリアとしても楽しむことができる。独学で技術を磨き、数多くの作品を作ったが、「新たなデザインを考えるのがとても難しい。けれどそれがまた魅力でもある」と笑みをこぼす。

森さんは、公民館自主講座として毎月第1・4土曜日の9時30分から木工教室を開催。その他、各所での木工体験教室や、自身がコーディネーターを務める甲佐町放課後子ども教室「まつやま塾」でも子どもたちに木工体験をさせたいと精力的な森さん。「最近はゲームなど一方的に刺激を与えられるものが増えたが、手を動かし考えながら作り遊べる組木は、子ども自身でイメージすることが出来る。想像力を膨らませる能力を自ら培ってほしい」と子どもたちに思いを馳せる。

今日も工房で糸鋸を走らせる森さんは、「作って遊ぶ喜びと木のぬくもりを感じることが出来る組木を、子どもから大人まで多くの人に伝えて行きたい」と優しい笑顔で明日を見つめる。

写真上）組木の五月飾り。色とりどりの人形たちが節句のお祝いを彩ってくれる。（下）子どもたちに人気の恐竜をかたどった組木。施設には所せましと数多くの木工作品が並ぶ。

発行 甲佐町
発行人 甲佐町長 甲斐高士
編集 企画課

TEL 096-234-1111（代表）
FAX 096-234-3964
URL https://www.town.kosa.lg.jp/

UD FONT by MORISAWA